

安倍首相は、フクシマ事故の責任をとらねばならない！



◇国も東京電力も、誰一人として、事故の責任をとっていない！ありえないことだ！！

フクシマ原発事故による福島県内の震災関連死は2037人(福島県被害状況即報第1635報)となり、避難者は今なお10万人にも上っています。9都府県の震災関連自殺者166人のうち、福島県の自殺者数はその半数の83人です(内閣府2016年2月現在)。周辺地域では、農業、漁業をはじめとして、あらゆる産業が破滅的な被害をこうむりました。

原発は国策民営事業です。これだけの重大な事故を引き起こしたのですから、政府の責任者や東電の責任者の刑事処分はあってしかるべきです。国会の事故調査委員会がまとめた報告書の中でも、「何度も事前に対策を立てるチャンスがあったことに鑑みれば、事故は自然災害ではなく明らかに人災である」と指摘しています。しかし、今だに、誰一人として刑事責任を問われていません。

例えば、火薬工場や化学工場の爆発事故が起こり、周辺の建物を損壊させ、人身被害を引き起こしたならば、すぐに警察の捜査が入り、現場検証し、証拠を押収し、逮捕・起訴というように進みます。場合によっては監督官庁や行政担当者の処分に進むこともあります。フクシマ事故では、それが全くないのです！これは、どう考えてもおかしい！！巨大な「人災」を引き起こした政府・東電の過失に刑事罰を課さないから、政府指導者・電力会社経営者はフクシマ事故を不可抗力のものとして居直り、またぞろ一体となって、原発再稼働をさせようとしているのです。

歴代の政権担当者や東電の社長・会長に責任をとってもらいましょう。安倍晋三氏も、フクシマ事故に責任をとらなければならない重要な人物の一人です。

◇安倍首相には、「不作為の責任」がある。事故は、未然に防げる可能性があったにもかかわらず、そのための対策を自ら進んで責任をもって取り組まなかった！！

「3.11」の前、2006年12月13日、吉井英勝衆議院議員(共産党)は、「巨大地震の発生に伴う安全機能の喪失など原発の危険から国民の安全を守ることにに関する質問主意書」を提出し、当時の安倍晋三首相はそれに答弁しました。その一部を、裏面に紹介しましょう。

	質問主意書（吉井英勝衆議院議員）	答弁書（安倍晋三首相）
1	原発からの高圧送電鉄塔が倒壊すると、原発の負荷電力ゼロになって原子炉停止だけでなく、停止した原発の機器冷却系を作動させるための外部電源が得られなくなるのではないか。	外部電源系は、二回線以上の送電線により電力系統に接続された設計となっている。...、 <u>外部電源から電力の供給を受けられなくなった場合でも、非常用所内電源からの電力により、停止した原子炉の冷却が可能である。</u>
2	スウェーデンのフォルスマルク原発1号の事故例を見ると、バックアップ電源が四系列あるなかで二系列で事故があったのではないか。...、日本の原発の約六割はバックアップ電源が二系列ではないのか。仮に、フォルスマルク原発1号事故と同じように、二系列で事故が発生すると、機器冷却系の電源が全く取れなくなるのではないか。	我が国において、非常用ディーゼル発電機のトラブルにより原子炉が停止した事例はなく、また、必要な電源が確保できずに冷却機能が失われた事例はない。 <u>我が国の原子炉施設は、フォルスマルク発電所一号炉とは異なる設計となっていることなどから、同発電所一号炉の事案と同様の事態が発生するとは考えられない。</u>
3	大規模地震によって原発が停止した場合、崩壊熱除去のために機器冷却系が働かなくてはならない。...、地震で送電鉄塔の倒壊や折損事故で外部電源が得られない状態が生まれ、内部電源もフォルスマルク原発のようにディーゼル発電機もバッテリーも働かなくなった時、機器冷却系は働かないことになる。この場合、原子炉はどういうことになっていくか。原子力安全委員会では、こうした場合の安全性について、日本の総ての原発一つ一つについて検討を行っているか。	地震、津波等の自然災害への対策を含めた原子炉の安全性については、原子炉の設置又は変更の許可の申請ごとに、「発電用軽水型原子炉施設に関する安全設計審査指針」（平成二年八月三十日原子力安全委員会決定）等に基づき経済産業省が審査し、その審査の妥当性について原子力安全委員会が確認しているものであり、 <u>御指摘のような事態が生じないように安全の確保に万全を期しているところである。</u>
4	停止した後の原発では崩壊熱を除去出来なかったら、核燃料棒は焼損（バーン・アウト）するのではないのか。その場合の原発事故がどのような規模の事故になるのかについて、どういう評価を行っているか。	経済産業省としては、お尋ねの評価は行っておらず、 <u>原子炉の冷却ができない事態が生じないように安全の確保に万全を期しているところである。</u>

安倍首相は、「3.11」以前に地震、津波、過酷事故対策等について、事前に対策をとれたにもかかわらず「原子炉の冷却が可能である」「（フォルスマルク発電所一号炉と）同様の事態が発生するとは考えられない」「安全の確保に万全を期しているところである」と、何も対策をとらなかったのです。それが結果としてフクシマ事故を招いてしまったのです！！

**安倍首相には、
まずもって
自身の誤りを謝罪すること、
責任をとって辞任すること
を求めましょう！！！！**

戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会

Tel : 080-8353-5792 (工藤)

E-mail : no_war_no_genpatsu_fukuoka@yahoo.co.jp

http : //no-war-no-genpatsu-fukuoka.jimdo.com/